



12年前日記

2000年1月24日
(月)

山田夫妻

『12年前日記 2000年1月24日(月)』

【2000年1月24日(月)】*2012年1月24日(火)記

朝10時、起床。さすが休み明けの月曜の朝。びっくりするくらい勤労意欲が低下、マイナスの彼方、もうどこにも見えな〜い。ちっちゃ〜い。

こんな急激な急降下したら、じじいやばばあならコロリと死んでるところだ、危ない危ない。せっかくオープンにこぎつけた俺の最後の夢、古本屋さんも開店三日目にして自主廃業したい気分だぜ。こんなダメダメな気分を引きずられて、ズルズルとこのままじゃいけないと思いつつも、とりあえず8連泊目に突入(450B也)。

11時、まずは何をしておき、先立つものということで銀行に行って、ついに出た虎の子、トラベラーズチェックで100ドルを3654Bに両替。トラベラーズチェックを知らない人は勝手に検索してね。とりあえずしばらくの軍資金はできた。

しかし、軍資金の大元自体がかなり心許ない。まだ従軍取材はもちろんのこと、難民キャンプ取材すら始まっていないのに金欠じゃ。

あら、いやだ、私ったら、古本屋としたことが恥ずかしい。これじゃあ、まるで自称プロ戦場特派員みたい。変なことを口走っちゃった。もう、いけず。

11時30分、スカイトレイン(25B)に乗って、例のライバル店の視察へ。550B分の古本を買い込む。ライバルに塩を送る形だが、何事にも初期投資は必要だ。

初期投資をケチってはいは、未来の大金がふいになる。何事にもリスクはつきもの。リスクにビビっていたら、使用人にしかなれないぜ。

経営者として事業計画に、経営戦略にブレはなし。この店の商品を全部買い取って、倍の値段で全部売れば一夜にして大金持ち。チョロイもんだ。

じゃあ、とりあえず持ち金全部突っ込めという声が聞こえてきそうだが、伏線張った通り、もう金欠状態だし〜、そもそもそんなに読みたい本が残っていないの、こんなバンコクの日本専門古本店なんかには！

ま、別に読みたい本がなくても、商売なんだから残り少ない持ち金を全部突っ込んでもいいけど、電車賃とマック代と8番ラーメン代、後はアレやコレやに残しておきたいから。

てか、うるせえ、素人がプロ経営者にゴチャゴチャ口出すんじゃねえ！俺の金をどう使おうと俺の勝手だろ。文句あるなら、俺とまったく同じ猿真似してもいいんだぜ。まあ、きっと無理だろうけど、猿真似すら。

スカイトレイン(25B)に乗って、昼マック(100B)へ。まさに一糸乱れぬ流れだ。

14時、ホテル着。古本の仕入れと昼マックいうとっても大事な一仕事を終えたので、昼寝。

19時、長い昼寝から目覚めて、8番ラーメン(103B)を食べに行く。ズルズル麺をすすりながら、今月の10日、17日と2週連続で月曜日に大事件があったから、今週の月曜、つまり本日、24日も何かあるかなあと思っていたが、今のところ何も起こっていない。

事件らしい事件は昼マック、夜8番が2日連続続いたくらいだ。後はこのまままっすぐホテルに戻って、一人寂しく寝るだけだぜ。

あの野郎、嘘ばかりコキやがって、何も起こらないじゃないか（…せっかくの設定を。ややこしくなるから余計なことはやめてくださいよ、2000年の俺様。以上、2012年の俺様の愚痴でした、今日！）。

あ、そんなことよりどうしよう、ホテルに戻ったら、俺の古本屋に初めて訪れてきた客が思いっきり死んでたりしたら。そんなことを考えたら、怖くなったので国際テレホンカードを買って（300B）、これも先行投資さ、エビで見事タイを釣るところを見せてやるぜ。俺の釣り人ぶりを見よ。

街角の国際公衆電話から、日本のママにテレホン。ほら、ちょうど軍資金の大元も心もとなくなってきたから、早めに金蔓から資金調達の手筈を整えておかないと。

経営者の才覚だ。当座の運転資金の不足分くらいはママ銀行日本支店から緊急不正融資して貰って何が悪い。

じゃあ、こうしちゃられない、ママに急いで電話しなきゃ。電話代？ 先行投資が必要さ、リスクを恐れるな、ハイリスクハイリターンだぜ。

国際派の自称プロ戦場特派員っぽく親に国際電話で金の無心をするときも「アローアロー、ディスイズヨシコトヨシオスピーキング」なんて、いい具合に。

せっかくいい気分になっているのに「あんた、今、ココにおるの？」とついにぼけたことをママんが。

「パードウン？ ココってどこのこと？」

「だから、アンタ、ラチャなんたらだわ。あんな恐ろしいの取材しとるのかね？」

何が一番怖かって、生まれつき自称プロ戦場特派員と言い張るバカ息子を持つ、親バカが早々にボケるのがもうたまないね。せめて親バカくらいはしっかりしてて貰わないと。

「おいおい、誰が盗聴しているか分からないんだ、不用意に騒ぎ立てるな。で、なんだあんなおそろしいラチャなんたらって」。

俺はとっとと本題の「シキュウカネオクレ」を伝えたかったが、まずは親孝行がてら世間話をばしようと孝行息子ぶりを発揮中。

結論から申すとすっごい副産物で超大成果がでたのはこの一本の国際電話だった。何度も言わせるな。ううん、何度でも言いたい。

日本に飼っている情報提供者から聞いた話に寄るところだ。

え、なんだって！ よくよく話を聞いてみてたところ、タイはラチャなんたらというところにある病院をカレン族のゲリラが人質を取って占拠したと。

このニュースを聞いた瞬間を一言で再現してみよう。あんどり。

晴天の霹靂でしたね、あの事件は。

ラチャなんたらは正確にはどこなのか？ いつ？何時？何分？だれが？なにを？どうした？
更に詳しい話を聞こうとするも要領を得ない。ホント使えないババアだ、自称プロ戦場特派員の自称プロ母親なら情報提供者として、もっと正解に情報を寄せよ。
ある意味斬新な情報収集手段ではあるが。

とりあえずの知ったかぶりショー。
「ああ、はいはい、その件でございますね。遠の昔に承っております、喜んで～。あ、言ってませんでしたか、そうですか。

実はちょうど今、そのラチャなんたらにいるから。ははは、これくらい朝飯前、こんなんが恐ろしいようじゃ、戦場特派員はできないよ。まあ、一応、念の為に、日本に正しく情報が伝わっているか知りタイから、タイだけに、で、そっちでは後、どんな風に伝えられているのかなあってな電話取材でした」

俗に言う、母親の口から事件の詳細を手に入れる離れ業を持つ、俺の世界を股にかける、自称戦場特派員っぷりと来た日には。

結果として、そのラチャなんたらの取材中で金がかさんでしょうがない、出世払いだからと金の無心ができたのでサイドビジネスも大成功だった。

めでたしめでたし。

とにかく、ま、いやだ、大事件じゃない！ 隣の奥さんに教えてあげなきゃ。あのねのね、誰も知らないドマイナーなカレン族の取材にきたタイミングで、世界を揺るがす、日本のド田舎のママンでも知るところになるカレン族の大事件が勃発！

天はナチュラルボーン自称戦場特派員の俺の味方だ。こんな到底ありえないタイミングで、ありえないくらいビックな事件だ。これはもう、ねえさん、事件です。大事件です！

なんでタイにいるのに知らなかったって？ みんながみんなすぐに間男に気づくわけじゃないだろ。

そして、タイくんだりまで来て、わざわざタイ語のテレビや新聞、腐れ英字新聞だってチェックしねえよ。

だってドマイナーなカレン族がニュースになることなんて、ほぼありゃしないんだから。
それに俺の最近の情報源は新宿鮫とかだぜ、歌舞伎町の最前線ニュースにしか精通してないぜ。
。

そもそも俺は政財界と実家に太いパイプを持つ男。それ以外にも世界有数レベルの独自の情報網を張り巡らせているわけだが、俺のもっとも信頼できるさる外交筋によると、ちょっとだけ

いい？ とある俺の裏筋によると、あ、そこ、気持ちええ～。

まあ、張り巡らしてたけど、ざるの目みたいに張り巡らせていたのが敗因かと。

さて、本題です。

バンコク滞在40日くらいにして、慎ましくまじめに取材に打ち込んだおかげか、ついに奇跡が起きる。神はいた。神の存在を初めて信じた。そして、俺は少なくとも自称プロ戦場特派員の神には祝福された存在だ。

やっぱ俺ってば、自称プロ戦場特派員神に祝福された、選ばれし男みたい。自分で自分が怖い。

偶然はすべて必然だ。

なぜ俺がいつまでもバンコクくんだりでウダウダしていたか。そう、それはこの事件に遭遇するためさ。

バンコク慣れに失敗しチェンマイでウンコ漏らしたのも、バンコクにカムバックしたのに年末年始休みに邪魔されたのも、年明けに内務省で「この日本人は一体何がしたいんだ」って紙切れ貰ったのも、野良犬に噛まれたのも、美人局にあったのも、不良の真似事したのも、古本屋始めたのも全部全部ひっくるめて仕組まれた必然の罠だったのだ。

そして、大事件が勃発したちょうどその日に、日本のママに金の無心テレホンをかけるなんて、出来すぎだ。

作ってる？ 作ってない作ってない、作ってないですよ～。

道理で見えざる力に動かされている気がしていたんだ。

おっとその前に、俺に謝る用意をお忘れなく。

てめえら、今まで散々、俺が言ったことを真に受けて、俺のことを古本を売ったり買ったりする人だの、不良の真似してる人だの、意味もなくコロコロホテルを替わるのが趣味の人だの、好き勝手言いやがって、そんなの大きな間違いだぜ、目を覚ませ。

それらはあくまで世を忍ぶ仮の姿に過ぎない。俺は生まれつき自称プロ戦場特派員だってあれほど口をすっぱくして言ってきただろ、何をしているときだって片時だって自称プロ戦場特派員の職分を忘れたことはない、忘れることなんて不可能なんだよ、もう365日24時間ブランブラン、目の上にぶらさがっている金玉みたいな存在だ。

ある意味、例え後ろ指をさされようと、昼行灯として恥ずかしくない行動を取り続けながら、俺はこんな大事件が勃発するのを、ただただひたすら待ち望んでいたのだ。

何とかならないかなあ、誰かなんとかしてくれないかなあっていう、題して棚ボタ大作戦！

いや、厳密には待ってすらいなかった。だって、こんな大事件は予測だにできない、その兆候すら、だって俺はカレン族の専門家じゃねえし、カレン族なんて門外漢だし。なんだ、カレン族

って？ 興味すらねえよ。きな臭い噂があるとか関係なしにノコノコやってきただけ、本当の偶然だ。奇遇だねえって感じ。

おっと今日はまだまだ引っ張るぜ。

とにかくコレできっかけが掴めた、古本と女と犬と内務省のバカヤローにはもうさよならだ。

どうだ、俺の実力を見たか。さあ、た〜んと謝りなさい。やっぱしょせん自称プロはどんな職業でもと陰で指差して笑っていた奴は、土下座、土下座して謝んなさい、「いいよ」っていうまで、ずっと頭上げるなよ（ラストの伏線張りましたよ〜）。

てか、いまいち事件の全容とか分からないし、どいつがいいもので、どいつがわるものなんだ。

ただ胸を張って、自信を持って言えることがひとつだけある。

これは一生に一度のラッキーが突然ふってわいたようなもんで、これはまるで...う〜ん、うまく例えられないくらいすごい。例えるけど。まず盆と正月がいつぺんに来た感じ。じゃあ、大したことないか。

誰にも知られていないお宝を拝みに来たら、折りよく折り悪く突然世界的に脚光を浴びちゃったみたいなの。

お宝って感じじゃないか。世界中の誰からも見向きすらされないブスと見合いするため、モノ好きにもわざわざタイくんだりまでやってきたタイミングで、突然そのブスが世界的に脚光を浴びる。ブスだから余裕でイケるんじゃないかと甘く見てたのに、突然手の届かぬ高嶺の花に。

例えないなら、初取材には無難でお手頃なんじゃないってカレン族の取材にきたはいいが、何にもうまくいなくて何がうまくないかすらも分からずバンコクで腐っていたら、想像だにしないカレン族絡みの世界的大事件が起きちゃったみたいなの。

世界的に日本的にまったくドマイナーだったカレン族が日本の片田舎に住むじいさんばあさんでも知っている一気に国際的なビックニュースに。

すごいラッキー。言い訳するわけじゃないけど、別にそういう兆候があるから、来てたわけじゃない。だって、そんな兆候つかめる経験も知識もノウハウも人脈もないから、その証拠に40日経っても目的の従軍取材はおろか、オマケの難民キャンプ取材の取材許可書も貰えないわけだから、アハッ。

てか、こんな危ない兆候があったら、そもそも来てねえし。単なるブスと見合いに来てんだ、こちとら。安全安心だから来たんだもん。

俺は確かに持ってるね。100年に一人の4番バッターには自然と9回裏二死満塁のチャンスに打席が回ってくるもんだ。才能や努力だけじゃどうにもならないものがある。

もしくはビギナーズラック。

ふと冷静になった。でもねえ、正直、こんな大チャンスは、ちょっとありがた大迷惑、ぶっちゃけ、もてあましもしいところ。

何も一生に一度あるかないかの、宝くじにあたるようなレベルの大チャンスがいきなり来なくても、到底ものにできるとは思えない。

せめて自称プロ戦場特派員を開業して3年くらい経った頃に、そろそろいいすかかって感じでおっとり来てくれないと。出直しておいで。

まあ、ビビっていても仕方ねえ。この運のよさはまさに俺が自称プロ戦場特派員に選ばれし証左だ。

さあ、いよいよ、本番が始まりましたよ。今までののは全部練習みたいなもん。俺は練習は手抜くけど、本番に強いタイプだから。

とりあえずまずどうしたらいいのかしらん。今の実力でモノにできるのか？

この日に備えて、俺は今まで24年間生きてきた。血反吐を吐くような血の滲むような鍛錬を日々積み重ねてきた、人知れず黙々と。恐れる必要も迷う必要もない。答えは誰よりも俺自身知っている。俺にしかできない、俺に任せるんだ。そうすれば自然と鍛え上げられた体が一番いい反応をするはずだ。一番いい方法に。生まれつき絶対王者の戦いぶりを見せてやる。

はい、こんなんでました。「とりあえず、もう今日は遅いし、暗いから一旦ホテルに引き上げよう」。

それに今は勤務時間外だけど当然うちは残業代も出ない。

ママとの電話は仕事か？ 大事な仕事に決まってるんだろ！

弊社はどんぶり勘定システムを採用してるけど、ちゃんと仕事とプライベートの区別などいらんわい。

20時、セブンイレブン（45B）で火照った頭と体をクールダウンさせて、ホテル戻り。

さすが自称プロとは言え戦場特派員、ラチャなんたらが正式にはラチャブリというのを突き止める芸当をまざまざと見せつける。仕事が早くて正確でもうサイコー！

ま、落ち着こう。ラチャブリはバンコクから電車で3時間くらいか。地の利はある。もう電車はない。車をチャーターする金はない。後の祭りだが、夜行バスがあったが、知らんがな。飛行機はあったかなあ。タクシーは高い、レンタカーは車の免許がない、レンタバイクは暑いじゃん、まさに八方塞がりだ、あ、始発電車、光明が差した、でも取材の本筋とは違うからあんまり気乗りしないなあ。あくまで従軍取材がメインで難民キャンプ取材はオマケなんだから、病院占拠取材なんてオマケのオマケ。

自分で自分を栄転という形で任命し、ラチャブリに地方出張。上の意向、社長命令は絶対服従、ワンマン社長の下での宮勤めはホントつらいもんだぜ。

なんか眠くなっちゃったし、早寝早起き三文の徳、規則正しい生活を心掛けましょう。今日は早く寝て、明日の朝早くに現場に急行することにしよう。早々に床につき、明日に備えて目をつぶる。

バンコクというアドバンテージがある、翌朝おっとり刀でも日本から駆け込むよりは早い。

慌てる必要はない、翌朝でも早いからだ、危険だらけの夜に無理することない。

大丈夫、俺はバンコクをタイをタイ人を知っている。そんなにすぐにどうこうしない。たぶん事件が解決するのはどんなに早くても一週間後。それまでダラダラしてんだ、どうせ。

きっとその期に及んでもきっとまだ膠着状態。タイ人はのんびりゆっくりウダウダしてるから。ふん、俺が何日、意味のないバンコク慣れを続けていると思うんだ。

その証拠にテロリストも土日は避けて、月曜にお仕事したじゃないか。

それにしてもよかった郷に入れば郷に従えでウダウダバンコクにいて。もし先走ってメソトとかに行っていたら、もしくは諦めて日本に帰国していたら、すぐに駆けつけられないけど、バンコクからならすぐに駆けつけられるもんね。メソトだ日本だに在る戦場ジャーナリストをカメラだとすると俺は兎だ、果報は寝て待て。

今までの俺は傍目にはヤル気がないというか、ヤらないヤル気がある、みたいに見えたかもしれないが、まあ、鼻眞目に見ても、今だってこの期に及んでとても取材をする気には見えないし、逆にチェッ、余計なこと起しやがってという態度が見え隠れ、なにこの態度、ま、でも小学生の男子が好きな女子にわざといじわるしたりからかったりするじゃない、アレみたいなもん。敵を騙すにはまず自分から。

壊れた窓から薄汚い星空を眺めて、どうか占拠の真っ最中でありますようにと祈りを捧げる。今、初めてウソついた、星空って言うのはウソだ。後は全部歴史だ、史実だ、真実だ。

古今東西腹が減っては戦ができんが座右の銘だもんで、ちゃっかり夜食は食べにいく、お茶目さんなオイラ。

2時、寝るのがもったいない、今夜は寝かさないぜという声に耳をつぶって。明日早くおきて行けばいい。寝れん！早起きは三文の徳なのに、自称プロなのに気分が高ぶって、思わず興奮しちゃう。せっかく床についた私め。就寝（2012年の俺です、ね、予告通り大事件が起こったでしょ。そして明日運命の日を迎えるのであった）

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ〜。

『12年前日記 2000年1月24日(月)』

<http://p.booklog.jp/book/43047>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43047>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43047>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.